

「泉南市学校給食基本方針（案）」に対するパブリックコメントについて

「泉南市学校給食基本方針（案）」に対するパブリックコメントの実施結果は、下記の通りとなります。

1. 募集期間 令和5年7月3日（月）から令和5年8月2日（水）
2. 提出方法 電子フォーム、郵送
3. 提出者数 8名（泉南市パブリックコメント制度実施要綱第2条第3項に該当しない方からの意見は反映しておりません）
4. 意見件数 11件
5. 計画内容に触れていない意見、計画（案）の賛否を問うものでは無いため賛否の結論のみの意見は記載していません。
6. 提出された意見等に類似したものがある場合は、これらを集約し適宜整理したうえで記載している場合があります。
7. 寄せられた意見と意見に対する市の考え方

項目 番号	該当 ページ	寄せられた意見等	意見に対する市の考え方
1	1	デリバリー給食反対 泉南市学校給食基本方針案は、児童生徒の教育条件劣化、悪化を進めて、金をかけずに安上がりの教育を進める政策そのものです。 方針案には「泉南市では、昭和50年9月から泉南市立学校給食センターにおいて完全給食の提供を開始し、長きにわたり児童に安全・安心な給食を提供することに努めてまいりました。しかし、建築後47年余りが経過している学校給食センターにおいては、施設・設備の老朽化が著しく、将来的には安全な給食提供ができなくなる可能性があります。そのため、泉南市教育委員会では、学校給食センターの今後の在り方について検討を重ねてきました。」とあるが、施設・設備の老朽化が著しければ、立て替えれ	泉南市では、老朽化が進む学校給食センターについて、これまで建て替えを含めた検討を行って参りました。具体的には、他自治体との共立による学校給食センターの設置、市有地を活用した民間調理場の誘致等について実現可能性を模索して参りました。しかし、いずれにおいても制度面や事業化までの期間等について課題があったことから、実現は困難であるとの判断に至りました。そのため、喫緊の課題となっている本市給食センターの老朽化への対策として、このたび小学校給食の民間調理場活用（食缶デリバリー）方式を導入するものです。

		ばよいだけの話です。立て替えないことを前提としているからデリバリー給食が出てくるのです。 現在中学校給食はデリバリー給食であるが、給食センターを立て替えて中学校給食のデリバリー給食を止めれば良いだけの話です。 なぜ泉南市がデリバリー方式を選んだかといえは、短期間での導入が可能で初期投資が不要であるというのがその理由です。要は金がかからないというのがその理由です。	
2	2	デリバリー方式は、衛生管理上一旦冷却する必要があることから、適温提供に課題が残り、導入には市内又は近隣自治体に対応可能な民間事業者があることが前提となります。中学校給食の場合、市内又は近隣自治体に対応可能な民間事業者がないため、とうてい近隣とはいいがたい業者を選定しています。 アレルギー対応や昼食を通じた食育の推進が難しく、市が負担する食材費以外の費用が最も高いのがデリバリー給食です。	今回、民間調理場活用（食缶デリバリー）方式による給食を提供する条件として、 1、これまでの小学校給食と同様の食缶方式による給食提供（中学校給食のランチボックス方式とは異なります） 2、小学校給食でのアレルギー対応 3、これまでと同様の食育の推進の継続（地場産食材の導入） を前提としています。 また、「市が負担する食材費以外の費用が最も高いのはデリバリー給食」とのご指摘につきましては、本市における積算によると従来どおりの市単独による共同調理場（給食センター）設置よりも、民間調理場活用（食缶デリバリー）方式の方が、低コストでの運用が可能であると認識しております。

3	2	方針案には、 (5) 学校給食を通じた食育を推進します ➤ 学校給食を食育に活用するため、給食ができるまでの様子等の教材の作成を検討し各学校での食育に活用します。 ➤ 学校給食を通じた食育の推進を図るため、地場産物の活用を検討した献立を作成するとともに、食育資料の配布を行います。 とあるが、デリバリー給食で地場産物の活用を検討した献立を作成するなど是不可能的です。	今回の民間調理場活用（食缶デリバリー）方式においても、現在小学校給食に利用している泉南市産米の使用をそのまま継続するとともに、副食における野菜等についてもこれまで同様に泉南市産の活用を積極的に行っていきます。
4		デリバリー方式には、弁当箱方式と食缶方式があり、なかには、通常は弁当箱のみで、汁物やカレーなどの場合のみ加えて食缶での提供するという事例もあります。 この方式は、これまで様々な問題を起こしています。神奈川県大磯町の2校の中学校給食の衛生面、味などの面で社会問題になった事例。兵庫県神戸市、佐賀県、大阪市などで異物混入や運営上の食味の問題、残食が多すぎるなどの問題がありました。 泉南市の中学校デリバリー給食も、問題点を改善する試みがなされましたが、デリバリー給食自体に問題があるため解決は不可能です。 「食べさせてもらえるだけでもありがたいと思え」というのが、教育委員会の学校給食観に基づいた、方針案には反対です。	これまで同様の調理や衛生管理体制の徹底を行うことで、これまでと遜色のない安全で安心な給食提供の実現が可能であると認識しています。
5		こどもたちに温かくておいしい給食の提供をお願いします。	安全・安心な給食提供に引き続き務めて参ります。
6	4	できるだけネオニコチノイド系農薬は使わず、減農薬に、ゲノム編集の物や、コオロギなどは使わないで欲しいです。 ですが息子はいつもたくさんおかわりして食べてます！いつもありがとうございます。	これまでと同様に学校給食衛生管理基準等に則り、衛生面や安全に配慮した食材の調達を心掛けて参ります。

7	1	民間業務委託になると知り合いよりお聞きして、とてもびっくりしました。 老朽化は仕方のない事です子どもたちから不評の声もあがっていることに耳を傾けてあげて欲しいです。 私の子どもたちはまだ未就学児ですが小学生になった時に温かい給食が提供されていない事、より美味しい家庭に近づけた出来立ての味など気になることが沢山出てきました。 どうか業務委託にせず各学校で自校方式での提供を検討お願いします。	項目2で述べたように、今回の提供方法は小学校で現在実施している方式をそのまま導入します。また、献立や食材調達についても市の栄養士がこれまでどおり主体となり行うため、給食は現在と遜色の無いものになると認識しています。 なお自校方式の導入については、設備面や各学校への調理員の配置等も含め、経済的、効率性の観点からも採用は困難と判断しております。
8	2	せっかく計画するなら、自校式です！ 自校式のメリット ・食育（圧倒的に子どもの育ちに有効） ・地産地消 ・学校ごとの事情に柔軟に対応できる ・避難所になる学校に調理場は必須 自校式のデメリットをあげるなら、市の予算（設備・人件費）と責任を減らせないことなのではないでしょうか 学校給食を自校式にすることは、子どもにも先生にも、地域の人たちにもうれしいことのほうがとてもとても大きいのです だから学校給食に対して市が予算と責任を持ってください、避けないでください 民間サービスではどうしても儲けが優先されます 子どもの育ちと、地域の人たちの安全を保障することには税金を使ってください	本市においては項目7に述べたとおり、自校方式の採用は困難であると認識しております。

9	2	「安心・安全の給食提供を進めるため」の基本方針というのなら、自校方式にすることが一番だと思います。それが、最悪の民間調理場活用（食缶デリバリー）方式になるとは理解できません。 最近、大きな災害が増えています。離れた場所から運べなくなった時には、給食が食べられなくなります。その時の対応は、どのようにお考えでしょうか。また、学校は、災害時の避難所になるので、調理場は必要だと思います。 近隣自治体も、ほとんどが自校方式です。 子育て世代が、家を買う時に、教育条件や環境は大きな要素です。給食が民間委託では、泉南市が選ばれる可能性が低くなってしまいます。人口減少が心配される中、今財政難だからと、コスト優先するのではなく、先々のことも考えて、是非とも自校方式を採用してください。	本市においては項目 7 に述べたとおり、自校方式の採用は困難であると認識しております。
10	1	先日、給食センターの閉鎖と民営化での食缶デリバリーへの移行を知り、驚きと怒りさえ感じました。ここ数年、泉南市の子供たちの教育環境、プール問題、小中学校の再編計画、毎日食べる給食までもが公共施設最適化計画の上に立って、計算上の数字とコスト減らしで計画されています。 行政って決まった事でも、市民、まして子供たちの為に柔軟に変えて行けるのが行政の手腕じゃないのですか。本当、このままでは周辺自治体と比べて魅力ない泉南市にどんどんなっていくような気がします。給食センターの建て替を希望します。市民に対して説明会を計画すべきだと思います。宜しく又、父兄アンケートを取るべきです。	項目 1 の理由により民間調理場活用（食缶デリバリー）方式の導入を行います。 項目 2 で述べたように、今回の提供方法は小学校で現在実施している方式をそのまま導入します。また、献立や食材調達についても市の栄養士がこれまでどおり主体となり行うため、給食は現在と遜色の無いものになると認識しています。

11	1	小学校の学校給食センターは築 47 年余り（昭和 50 年 9 月～）経過し今後の給食センターのあり方について検討を重ね「学校給食基本方針（案）」を策定したと市は言っているが、老朽化は突然おこったものではない。10 年も 20 年も前から今日の事態は予測できたはず。 今ごろになってあわてふためいても正しい方向を示すことはできないのではないですか。 市は、阪南市との話し合いも不調に終わり、短時間に対応できる民間調理場活用し食缶デリバリー方式でやると決めたとある。 子ども達の“生命を守る”給食事業を余りにも軽率に扱いすぎである。「子どもの権利条例」の立場は完全に欠落していると思われませんか。“子どもの最善の利益”の保障、子どもの“生命を守る”「食育」についてどのようにお考えでしょうか。 （例 1）隣の泉佐野市では今年の 6 月議会でセンター方式の学校給食をやめ、自校方式の給食を実施すると決めたそうですよ。 （例 2）大阪市では、中学校のデリバリー(弁当)方式の給食はまずくて不人気であるため、自校方式の学校から給食を搬送する親子方式にすることを決めたといいます。 ☆現在、大阪府下の学校給食は、これまでのセンター方式やデリバリー弁当方式から自校方式・親子方式へと主流になりつつあります。 ☆今後の学校給食のあり方は子ども達に安全・安心のおいしい給食を食べさせてあげたい。“食育”を大切に考え生命を守る給食は“子どもの最善の利益”を保障するものになるべきです。 ☆今後、西信小・西信中の老朽化の建て替えには必ず自校方式の	本市においては項目 7 に述べたとおり、自校方式の採用は困難であると認識しております。
----	---	--	--

		給食が実施されるよう強く求めます。 長期にわたる学校再編計画(40 年間で完成させる)がありますが、この完成を待つまでもなく、今ある学校での自校方式・親子方式の給食実施を求めます。短期間でできないという基本計画を見直して、今後、自校方式にとりくんで行く道すじを示して下さい。短時間ではできないなら長時間かけて計画をねり直して下さい。	
--	--	--	--